

(76) 鴨都波神社で行われる伝統行事で、境内や周辺を練り歩く出し物はどれか
ア.たいまつ イ.ススキ提灯 ウ.藁の蛇 エ.鉾 答え イ

■鴨都波神社（御所市）

祭神：積羽八重事代主命、下照比売命、建御名方命

崇神天皇のころの大豪族鴨氏の氏神社。高鴨神社と同様、全国的に分布する鴨社の源流の一つにあげられる。以前は高鴨神社の上鴨社に対して下鴨社と呼ばれていた。中鴨社は御歳神社である。当社付近一帯は弥生時代の大規模な集落跡である鴨都波遺跡であり、境内地を中心に土器や石器などが多数出土している。

◎ススキ提灯献灯参拝行事-鴨都波神社（御所市）7 月 16 日、10 月スポーツの日の前々日の土曜日

旧御所町及び隣の 5 つの地区（東松本、竹田、南十三、蛇穴、元町）の氏神として崇敬されている鴨都波神社で行われる祭礼行事。夏祭り（7 月 16 日）と秋祭り宵宮（10 月スポーツの日の前々日の土曜日）に、五穀豊穡・家内安全・無病息災を祈願し、氏子地域から「ススキ提灯」と呼ばれる提灯が奉納される。平成 12 年 3 月、奈良県無形民俗文化財に指定された。献灯行事は県内でも類似のものがみられるが、当社のススキ提灯献灯行事は、県内最大級であると共に奈良盆地南部における献灯行事の原型を示す代表的な祭礼として位置づけられている。

🔦 ススキ提灯とは

2 間半（4.5m）ほどの竹製の支柱に、横木を 4 本通し先端から紐で連結し、高張提灯を上から 2・4・4 の合計 10 張を三段に組み立てて、先端部に御幣を掲げたもの（鴨都波神社の場合）。県内においては、稲積みの形をススキまたはスズキと称する所が多い。また「稲穂の実っている姿」がススキ提灯の原型との説もある。

※藁の蛇って？…5～6 月にかけて行われている奈良盆地各地の野神行事で見られる。
（田原本町鍵 鍵のジャマキ、橿原市上品町 上品寺のシャカシャカ祭り など）

◎蛇穴の蛇綱曳き（汁かけ祭り）-野口神社（御所市）5 月 5 日

野の神に豊作と農耕の無事を祈る野神信仰が残る野口神社で、毎年 5 月 5 日の朝、境内に氏子たちが集まり、前日に作った蛇の頭部に、餅米のわらで約 14m の蛇体を編みこんで蛇綱を完成させる。蛇綱は拝殿で祈祷の後、ワカメの味噌汁をかけられ、参拝者にも味噌汁が振舞われる。その後、子らを交えて「蛇綱曳（じゃづなひ）き」が始まり集落を巡行、神社に戻ると、蛇綱は蛇塚に巻かれ、供えられる。この「汁かけ祭り」は、御所市の無形民俗文化財に指定されている。

(77) 大和郡山市の源九郎稻荷神社で行われる祭事で、白狐に扮するのはどういう人たちか

ア.芸者衆 イ.子供たち ウ.年男と年女 エ.新成人 答え イ

■源九郎稻荷神社（大和郡山市）

祭神：宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）、源九郎稻荷大明神

社名は歌舞伎・文楽でおなじみの「義経千本桜」に由来する。今より八百年前(鎌倉時代)、源九郎判官義経は、兄頼朝と仲たがいをし、奈良の吉野山に追われた。その逃げる道中、白狐は義経と共にあり、義経を護り続ける。義経は白狐と別れの時、旅の無事を感謝して自分の名前「源九郎判官義経」の「源九郎」を与え、「白狐源九郎」として名乗ることを許したとされる。時を経て、天正 13 年(1585 年)、豊臣秀長が最も信頼する、長安寺村(現大和郡山市長安寺町)の宝誉上人の進言により、この白狐が築城の守護神とされた。本殿両脇に宝珠をくわえ財宝にご利益があるという狛狐と、巻物をくわえ知恵にご利益があるとされる狛狐が鎮座する。その横には六代目中村勘九郎の襲名記念の梅が植樹されており、春には境内を彩る。

◎お城まつり-大和郡山市 3 月下旬～4 月上旬頃

昭和 36 年(1961 年)、当時の観光協会会長の広瀬元次郎氏が、城址の天守台をはじめ、そのまわりの石垣の中に多数の石仏、墓石が積込まれているのを知り、これらの石仏と城史有縁の諸霊を慰めるために始めた「数珠くり法要」がおこり。

当初は 5 月 5 日子供の日に行われたが、翌年以降、桜花の開花期に毎年開催されていた金魚品評会に合わせて行う事となった。そして今日まで古い伝統と歴史のあるいろいろな行事が、4 月の中旬に集中して催されるようになった。その一環として武将に扮した「時代行列」と、白狐の面をつけた子ども達の「白狐渡御」が城下町を練り歩き、周辺一帯がにぎわいを見せる。

(78) 東大寺二月堂修二会の練行衆の四職のうち、法会を統括するのは誰か

ア.和上 イ.大導師 ウ.呪師 エ.堂司 答え イ

◎二月堂修二会（お水取り）-東大寺（奈良市）3 月 1 日～14 日

天平勝宝 4 年（752 年）、東大寺開山良弁僧正の高弟、実忠和尚によって創始。古代において、天災や疫病や反乱は国家の病気と考えられ、そうした病気を取り除き、鎮護国家、天下泰安、風雨順時、五穀豊穰、万民快樂など、人々の幸福を願う行事とされた。東大寺の長い歴史にあって、大伽藍の大半が失われてしまった時ですら、修二会だけは「不退の行法」として、1250 有余年もの間一度も絶えることなく続けられている。12 月 16 日（良弁僧正の命日）の朝、翌年の修二会を勤める練行衆と呼ばれる 11 名の僧侶が発表され、明けて 2 月 20 日より別火（べっか）と呼ばれる前行が始まり、3 月 1 日からの本行に備える。そして 3 月 1 日から 14 日まで、二月堂において修二会の本行が勤められる。

※参籠衆とは

東大寺修二会において、練行衆とそれを支える関係者を含めた籠る人々は参籠衆とよばれ、約 40 名が精進潔斎の生活を送る。厳しく穢れが禁じられるため、服喪中の人は参籠衆にはなれない。

練行衆→中心となって行法を行う 11 名。役職者である四職と平衆で構成される。

♪ 練行衆 役割解説 ♪

四職	和上	練行衆に「戒」を授ける
	大導師	祈願を司る行法全体の導師
	呪師	密教的、神道的なものをも含めた修法を司る
	堂司	平衆を率い、修二会の進行を司る
平衆	北衆之一	北座衆の長であるとともに平衆の長
	南衆之一	南座衆の長
	北衆之二	北座の次席
	南衆之二	南座の次席
	中灯	会中の記録役、かつては二人いた時代もある
	権処世界	処世界を補佐
	処世界	堂内の掃除、準備等

三役→

堂童子…礼堂・外陣・閼伽井屋等を掌握。練行衆の勤行に付随する外縁作法担当。

小綱兼木守…法会の会計・雑法務の担当者

駟士…湯屋を掌握し、雑法務にたずさわる

★過去出題（東大寺修二会関連）→ 頻出。ストーリーと行事の内容を把握しましょう。

- ・「笠置寺」「鵜」「青衣の女人」から連想される行事
- ・若狭井から汲み上げる水 → 香水
- ・汲まれる水について、伝説で語られる二月堂近くに香水が湧き出た理由
→ 遠敷明神が神々が勧請された時に、参着が遅れたお詫び。
- ・法会に参加する練行衆は現在何名からなるか → 11 名
- ・参籠する練行衆の配役発表→良弁僧正開山忌（12/16）
- ・火天・水天に扮した練行衆が行う作法→達陀
- ・練行衆が上堂する際に先導する通常 10 本の松明が 11 本になる日は→3 月 12 日
- ・東大寺二月堂の修二会において、「六時の行法」ごとに行われ、練行衆が膝から我が身をたたきつける悔過作法は何と呼ばれているか→五体投地
- ・東大寺修二会において 2 月 20 日からの前行の別火はどこで行われるか→戒壇院
- ・東大寺二月堂「修二会」の練行衆が「ゴボ」と呼ぶ夜食はどれか。→茶粥

📖 例年開催される奈良博の東大寺お水取り特別展の鑑賞がオススメ。

(79) 興福寺薪御能において、春日大社で行う「呪(咒)師走りの儀」で「翁」を舞うのはどの流派か

ア.金春流 イ.観世流 ウ.宝生流 エ.金剛流 答え ア

◎薪御能-興福寺、春日大社（奈良市） 5月第3金、土曜日

薪御能は、全国各地で行われている「薪能」の起源とされ、能の始まりを考える上で重要な位置づけにある。869（貞観11）年に興福寺西金堂で執り行われた修二会始行での薪猿楽が最も古く、その後数々の変遷を経て今日に至る。

1990（平成2）年には奈良市の無形民俗文化財に指定。かつて春日大社や興福寺などの神事で奉仕していた「大和猿楽四座」を原点に、現在は観世・金春・宝生・金剛の「能楽四座」による能と、大藏流による狂言が2日間にわたって奉納される。

当日のプログラム（2026年）

5月 15日	11時	春日大社舞殿	呪師走りの儀	・金春流能「 <u>翁</u> 」…金春 憲和ほか
	17時 30分	興福寺 南大門跡	南大門の儀	（舞台あらため）…興福寺 衆徒（ <u>僧兵</u> ） ・宝生流能「頼政」…辰巳 満次郎ほか （火入れ）…興福寺 衆徒（ <u>僧兵</u> ） ・大藏流狂言「長光」…茂山 千五郎ほか ・金剛流能「杜若」…金剛 永謹ほか
5月 16日	11時	春日大社若宮	御社上りの儀	・金春流能「東北」…金春 飛翔ほか
	17時 30分	興福寺 南大門跡	南大門の儀	（舞台あらため）…興福寺 衆徒（ <u>僧兵</u> ） ・観世流能「養老」…観世 喜正ほか （火入れ）…興福寺 衆徒（ <u>僧兵</u> ） ・大藏流狂言「蝸牛」…茂山 忠三郎ほか ・金春流能「知章」…金春 穂高ほか

★過去出題（薪御能関連）

- ・春日大社舞殿の「呪師走りの儀」で舞われる演目はどれか→翁
- ・薪御能は興福寺のどの法会の一環だったといわれるか → 修二会
- ・明治維新後、明治3年まで薪御能を一座で維持していたのはどれか→金春座
- ・薪御能で薪に点火するのはだれか→僧兵
- ・薪御能で「舞台改めの儀」を担当する役は、どのような姿をしているか→僧兵
- ・「薪御能」についての記述のうち、正しいのはどれか
 - ×能の発生以来、絶えることなく続いてきた。
 - ルーツは「薪猿楽」といわれる。
 - ×興福寺文殊会の一行事として始まった。
 - ×大和四座のほか、喜多流も参加する。

(80) 五條市（旧大塔村）の地狂言である「惣谷狂言」が村史編纂を契機に復活したのはいつか

ア.明治時代 イ.大正時代 ウ.昭和時代 エ.平成時代 答え ウ

◎惣谷狂言-天神社（五條市：旧大塔村惣谷） 1月25日

五條市大塔町の惣谷地区に古くから伝わる地狂言。正月の神事初めに氏神の天神社と円満寺の境内で奉納のために行われた。

以前は篠原踊りと同様の踊りも奉納されていたが、現在は狂言のみが残る。

明治40年頃から演じられなくなり、大正天皇即位の大典で大正4年に演じられて以来途絶えていたが、大塔村史編纂を機に復活の気運が高まり、昭和33年に復活された。

「鬼狂言」「狐つり」「舟漕ぎ」「万才」「壺負い」「鳥さし」「鐘引き」「かなぼうし」の8曲が伝えられており、毎年この内の2曲が1月25日に奉納される。

奈良県の無形民俗文化財に指定されている。

◎篠原踊り-天満神社（五條市：旧大塔村篠原） 1月第3日曜日

昔、篠原地区周辺を困らせていた獰猛なオオカミを退治するために、村中総出で氏神様に踊を奉納したところ願いがかなったことから、以来踊り続けられていると伝わる。篠原地区は、豊富な自然林の中育ったクリなどを材木として杓子や椀を作る「木地師」と呼ばれる人たちが住んでいた集落で、下流の惣谷、中井傍示、中峯とで「舟ノ川郷」と呼ばれていた。他説では、こうした地域で自給の農耕を営む場合に問題となる農作物への獣害が、オオカミによって守られていたことに対する感謝の踊ではないかとも言われる。昔は神社に奉納したあと余興としてお寺でも踊られていたそうで、48番もあったが、現在は保存会の方々によって1月第3日曜日に「入波踊」など三曲が式三番として奉納されている。

奈良県の無形民俗文化財に指定されている。

以上